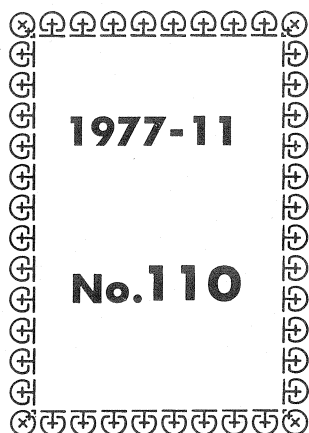


もくじ



表紙 エロシェンコ像

中村彝筆

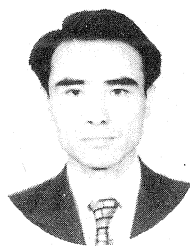
解説は20ページ参照

題字デザイン・桑山弥三郎

文化行政に国民の支持を……………安嶋 彌………… 4	
——文化庁長官退任に当たって——	
文化振興の条件を整備……………犬丸 直………… 5	
——就任に当たって——	
対 談	
我が国バレエの将来…………… 6	
江口 博・服部智恵子	
青少年に芸術鑑賞の機会を……………富田博之………… 12	
——財団法人日本青少年文化センターの事業——	
インド、欧州の文化を訪ねて……………山本峯生………… 14	
文化庁ニュース	
文化庁の昭和53年度概算要求まとまる…………… 16	
昭和52年度地方文化行政担当者研修会終了…………… 18	
第1回芸術家国内研修員決まる…………… 18	
新刊紹介	
「ことば」シリーズ6「標準語と方言」、	
「ことば」シリーズ7「言葉に関する問答集3」…………… 19	
東京国立近代美術館特別展…………… 19	
——フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術——	
奈良国立博物館特別陳列…………… 20	
「伎楽面」	
フランスのフェスティバル……………長谷川善一………… 21	
——ナンシー世界演劇祭、芸術普及事務局	
のことなど——	
我が県の文化行政	
福島県の文化行政……………阿部信市………… 23	
文化財保護法教室(12)	
民俗文化財の指定と保護…………… 26	
美術館・博物館・文化施設めぐり⑥	
私立で最古の大倉集古館…………… 30	
国立劇場ニュース…………… 31	

フランスのフェスティバル

——ナンシー世界演劇祭、芸術普及事務局のことなど——



長谷川 善一

(在仏日本大使館一等書記官)

一

フランスにおいて、映画祭を除いてもフェスティバルと呼ばれる芸能祭は、音楽・演劇・舞踊の分野で約二百ある。負担区分は種々であろうが、大抵、主催の市及び現地商工会議所のほか、国・県からの援助に頼っている。

外国からのグループないし、個人が参加する場合には、主催者が招待するが、通常、主催者は滞在費を負担するだけで、旅費は参加者側が負担する。

これらのフェスティバル（芸能祭）は、各地方の文化一般の向上に役立つことのほか観光宣伝の意味もあって、フランス政府は積極的にその発展を援助している。

文化政策の点からいえば、フェスティバルの機能には①創造的機能と②文化啓発機能の二つがあり、前者は既存の大規模な劇団・音楽団体等では、その体質上果たせない時代の先端を行く前衛的な、創造の場をフェスティバルが提供することであり、後

者は、むしろ、既存のものをより広く一般大衆に普及させるものである。

政府が特に重視している芸能祭には、特に、次の四地域の主要フェスティバルがあり、これは文化普及の地方拠点政策に基づくものだ。

一 大西洋沿岸地方

ロワイヤン（音楽）

ラ・ロシェル（前衛演劇）

サント（中世音楽）

二 南仏

アビニオン（音楽、演劇、絵画）

エクス・アン・プロバンス（音楽）

オランジュ（オペラ）

三 パリ

フェスティバル・ド・オトヌ（総合）（元文化庁

長官ミッシェル・ギ氏が組織委員長、一九七二

年創設）

フェスティバル・エスティバル（音楽）

フェスティバル・ド・マレ（総合）

四 アルザス・ロレーヌ地方

ナンシー（演劇）

ストラスブルグ（音楽）

このうち、一は、啓発機能、二は、特に創造的機能を重視し、三、四は両者を兼ねるといつてよい。

その他、ボルドー、アンジエレンヌ等々のフェスティバルも特色をもつ。

二

フランス政府は、各フェスティバルに対し、企画が重複しないよう調整に当たり、フェスティバル・ド・オトヌヌ、ナンシー、アビニオン等、外国からの参加を含むフェスティバルにおいては、国際的協力による芸術活動の場の確立をはかっている。また、中小都市でのフェスティバルにも、財政的援助を行い、他の大きなフェスティバルにも参加、確立された劇団、音楽団体等の公演の受け入れを奨励している。

三

ナンシー世界演劇祭は、隔年に開催される。今年が開催年に当たる。日本からの参加はまだきまつていないが、旅費が一切参加者負担なので補助がなければ無理であろう。

このナンシー世界演劇祭は、パリのフェスティバル・ド・オトヌヌ、アビニオン芸術祭について、演劇関係では重視されているらしい。

組織も確立しており、ジャック・ラング（前国立シヤイヨー劇場の主宰者）のイニシアティブによつ

て、一九七五年も大規模な現代演劇討論会を開催するなど、この分野では世界的に注目を集めている。アビニヨンにおいては、主催者が招いた劇団以外にも各グループが独自に公演することを認めている。毎年数多くの現代演劇グループが各国から集まる。ナンシーにおいては、開発途上国を含め、世界各国の民族演劇が参加することが特徴で、演劇グループ間の交流も盛んである。

四

例年、ナンシー世界演劇祭においては、日本の演劇が高く評価されていて、関係者の注目を集めている。

ナンシー市は、金沢市と姉妹都市の関係にあり、両市の交流は盛んで、フランスの地方都市にあっては、特に日本に対する関心も強く、ナンシー市当局は日本からの参加を特に希望している。

なにより、ナンシー世界演劇祭は事務局・指導者が確立しているし、今後さらに発展すると思われる。こういう点を考えると、我が国から少なくとも一つのグループが参加することが望ましい。

五

現在、フランス政府は、文化振興基金(FIC)、芸術普及事務局(ONDA)その他の政府機関を通じて、約二五〇のフェスティバルに対し、一一、八〇〇万フラン(一フラン六〇円とすると一六億八千万円)前後の援助を行っている。

一九七七年もフェスティバル・ドオートヌヌ約一億

五千万円を筆頭に、援助が予定されている。

FICと呼ばれる文化振興基金については、PR誌「美をもとめて」九号世界の文化庁のフランス篇にふれられている。

芸術普及事務局ONDAについて、在仏日本大使館小谷氏の調査によるところを紹介してみよう。

* * * * *

一、芸術普及事務局(ONDA, Office national de diffusion artistiqueの略)は仏文化庁の外郭団体であり、パリに事務所を置く。一九七五年二月二三日に設立され、現事務局長はフィリップ・テイリー氏である。

二、ONDAは、仏国内の芸術活動の「情報銀行」の機能を果たすことにより、パリに集中しがちな芸術活動の地方普及を目的として設立された。

仏の地方都市は文化センター等の設備を有しながら、情報及び財源の不足からその設備を利用すべき芸術団体の招致に困難を感じている。一方各芸術団体も主に財政的理由により、地方にその活動を拡大しえないでいる。

ONDAは「情報銀行」として、地方都市及び各種団体からの、いづごろ、いかなる種類の芸術団体を受け入れたいとの要請をプールし、該当する芸術団体からの申し込みに結合させる。その際必要とあれば技術的・財政的援助も受け入れ団体に対してなされる。

受け入れ団体からの、特定の芸術団体の招致を目的とした財政的、技術的援助の申し込みにも、ONDAは応じる。

三、ONDAからの各種援助は常に受け入れ団体に對してなされ、芸術団体に対してなされることはない。受け入れ側は、市・町・村及びそれに付属する公共団体である必要はないが、一定の法人格を有していなければならない。

四、現在ONDAが重視している分野は、演劇、音楽、舞踊であり、展覧会、映画会に対する比重は小さい。一九七六年度におけるONDAが受け入れ団体を通して接触した芸術団体を分野別にみると以下の通りである。

演劇 四〇団体
音楽 一七(オペラを含む)
舞踊 一五

展覧会 三

映画会 二

(注・演劇四〇団体には七つの外国団体も含まれる)
五、ONDAの七七年度予算は五〇〇万フランである。一九七六年度においては約一、三五〇件の財政援助を与えている(つまり、上記の各団体が各地を巡業するわけである)。援助額は一、〇〇〇フラン程度より二五〇、〇〇〇フランまで幅が広いが、三、〇〇〇フランから一〇、〇〇〇フラン程度のものが大多数である。なお上記二五〇、〇〇〇フランは一劇団の一月にわたる公演に対してなされた援助である。六、ONDAの活動範囲は仏領土内にかぎられ、外国団体の招致旅費等の援助は仏芸術活動協会(As-sociation Française d'action artistique, 外務省管轄)が担当する。

編集後記

○九月二十日付けで、安嶋彌文化庁長官は東宮大夫に就任された。約二年間の長官在任中、文化行政長期総合計画のまとめなど文化行政の振興に大きな業績を残された。

犬丸直新長官は、自ら謡曲を楽しむなど芸術文化への関心の高い方である。文化行政の一段の飛躍が期待される。

○舞踊評論家の江口博氏と日本バレエ協会々長の服部智恵子氏に我が国バレエの現状と将来を語っていただいた。この中でも第二国立劇場の必要性が出ている。現代舞台芸術の振興の拠点となるべき劇場が早い時期に建設されることを祈るものである。

(K)

広告の問合せ・申込み先

株式会社 ギョウセイ 営業課
TEL(〇三)二六八―二四一(代表)

「文化庁月報」十一月号

(通巻第一一〇号)

昭和52年11月25日印刷・発行

編集 文化庁

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

発行所 株式会社 ギョウセイ

本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号

営業所 〒162 東京都新宿区西五軒町52番地

電話 (〇三) 二六八―二四一(代表)

振替口座 東京 九一六一番

印刷所 (株) 行政学会印刷所

定価・一五〇円(送料二九円)
年間購読料 一、八〇〇円